

蒼語隨筆

五

庫	文	閣	內
一五三	二八	和	
冊	九七	書	
架	冊	號	類

內閣文庫		
番號	和	28197
冊數		8 (5)
函號	153	298



蒼梧隨筆卷之五

一新安年間序跋

一旗幟引兩之字義

一打字之事義

一梅の造り花の造りと法を考へておく

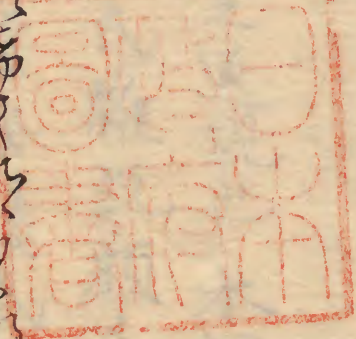
一加點之事

一三物四物七物等之事 並北方ノ稱雜色ノ事

一室家稱北方事

一雜色名目ノ事

一朝觀音夕茶師因縁



明治十五年贈本

筆一据拾其正言者也臣嘉樹幸得其親書而騰
書此矣仍不顧卑辭苟且演題于細云爾
寛政二年九月十日
新安手簡之記者筑後守從五位下源朝臣君美
号白石先生 与水戸黄門卿文学安積寛兵衛
号澹史 注返之尺牘而有和漢故実ノ一蹟相互研究精
密之議論也同藩之學生立原甚五郎伯時輯
以為一書且終有鳩巢先生室新即以下群書生
之尺牘数帖共合附其尾全備為三帖直名新安
手簡云爾 大塚一郎衛門嘉樹跋之

旗紋引兩之字義

大平記十四卷新田足利確狹奏狀ノ段ニ云義貞
若宮ノ重宝共テ披見ニ玉ヲニ錦ノ袋ニ入夕
ルニ引兩ノ旗アリ云々又箱根竹下合戦ノ條ニ
云勝ホコリタル敵ナレハ何カハ少モヒルムヘキ十
文字ニ合テ八文字ニ破ル大中黒トニ引兩トニ
ツノ旗ヲ入替ニテ東西ニナニキ南北ニワカレ
テト云々又同書卷十八瓜生拳旗ノ段ニイツ
誰トハミテス未座ナル者ニツ引兩ト大中墨
ト孰レカ勝レタル故ニテ候ヲニト同ケレハ

美濃將監故ノ善忠ヲハ普置キ吉凶ヲ云ハ大
中里程目出夕キ故ハアテニト覺ユソノユヘハ
前代ノ文ニ三鱗ヲセラレミカ滅ヒテ今ノ世ニ二
ツ引兩ニ成ス是ヲ又亡サニスル故ハ一ツ引
兩ニテコソアラニスラント申ケレハ天野民部
大捕勿論ニ候周易ト申文ニハ一文字ヲハカ
夕キナシト讀テ候ナルト云々

以上一文字ヲ一ツ引兩ト云ニ文字ヲ二ツ引兩ト
云ヘルノ證ナリ白石ノ軍器考ニ云新田ノ
大中里ハ日ノ字ニ象リ足利ノ二引兩ハ月ノ

字ニ象レリ其本兩家ハ嫡男ト二男家ナリ
ユヘニ日月ノ二象ヲ分ツテ旗ノ文ト成シ
タル由見ヘタリ祖如何ナル故ヲ以日月ノ
字ヲ用テ嫡家ト二男家ト分ツテ旗ノ
文トシタルト云フハ記サレヌ猶可尋明コ
トナリ
右一ツ引兩二ツ引兩ト云事引兩ノ義詳ナラス
或説ニ云横ニ里ク引タルヲ龍蛇ノ形象ニトリ
上天騰蛇ノ勢ニ據ヒリト云フ義ニテ一ツ引
龍又二ツ引龍ノ謂ヒヲモテ引龍ノ龍ヲ龍ト

書クハ假字ノ借字ナリト云ヘリ僻業スルニ是龍ノ横ニ引トハ鳥子紙ニ竜ヲ

一文字ニ引タルアリ夫ニ思ヒヨセタル説ナレハシ然レトモ此引竜ト云フハ舊

記ノ據ルヘキ事ナケレハ信用シカタクモ也

謹テ考ルニ引兩ノ兩字ハ灵字ノ義ニテ引

灵ナリ其據ルトコロハ胡曹抄ニ批華茂葉ノ中胡曹抄アリ

天子御袍ノ文竹桐御兩鳳トアリ是ヲ権記ニ

考ルニ藤原行成ノノ御記ナリ天子御袍ノ文竹桐五灵鳳

ト書レタリ是ハ御兩ハ灵ニテ二字共ニ其字

音ヲ備リタル假名書ナリ胡曹抄以下ノ文ハ野宮定基石ノ御物ナリ

ト見ヘタリ柳一引兩ニ引兩ハ日精ノ二灵ナリト

有レハ全ク一ツ引灵ニツ引灵ナリ日精月精ヲ

灵ト云フハ

天照太神ヲ大日灵貴ト云ヒ月讀ノ尊ヲ月灵

灵貴ト云フカ如ク灵トハ日月精靈ノ事ニテツノ

灵ノ字ヲ兩ト字画ノ省略ニテ備リ用ヒタルモノ

ナリ去レハ実ニハ一ツ引灵ニツ引灵ナリ上ニ云ヘ

レ権記ノ例ニテ其灵ヲ兩トシ引兩ト書事

ノ據ル處是ヲ以テ明ムヘシ且日精ヲ大中里ト

テ一文字ニ引ハ○字ノ形象ニツ引兩ヲ二文字

ニ引クハ月字ノ形様ナリ是モニ夕上ニ云ヘル軍

蓋考之引レタル日月ノ謂ヒニ考ノ業スルキ
事（ナリ）右ノ職曹飾係ノ事如尋々人可ク未ク考ノ序
子持節ノ事（ナリ）此ノ事ノ漫ク考ノ事ト
笔ノ事ナリ究クニ此ノ事ノ了

天明四年五月廿日

橘嘉樹

天明八年九月廿日
此ノ事ノ了
天明八年九月廿日

打字之事義

歸田錄曰（晋陶潜著）今世俗言語之誤而舉世君子小人皆
同謬者惟打字尔（丁雅切）吳義本謂考擊一故人相
毆以物相擊皆謂之打而工造金銀亦謂之打可
矣蓋有槌槌作擊之義也至於造舟車者曰打
舟打車綱為曰打魚汲水曰打水後支餉飯曰打
飯兵士給衣糧曰打衣糧後者仇傘曰打傘以糊
黏紙曰打黏以犬尺量地曰打量奉手試服之舟
明曰打試至名儒碩學語皆如此解事皆曰之打
而偏檢字書了無此字（丁雅切）其主考擊之打自音

謫耿以字言之打字從手從丁丁又擊物之聲也
 故音謫耿為是不知因何轉為丁雅也
 小補韻會曰頃氏家說曰俗間助諸多与本辭
 相及其於打字用之尤多凡打量打聽打詣打量打睡
 為非打者不但擊打之義而已云々
 右ノ義ヲ以考ルニ打字和訓ニ宇津ト云即打
 聽打量ト義ヲ同セリ是槌槌ノ類又手ヲ以テ
 打事ナラスニテ改擊ノ訓ヲナスモノ多クイハ
 苟且ニ其人口ニ尋常稱謂スルモノヲ舉タル
 ナリ各々左ニ注ス

車ヲ打舟ヲ一 弓ヲ一 鞍ヲ一
 乗物ヲ一 紙ノ裏ヲ一 繪ノ子ヲ一
 此類ハ物ヲ作ル事ヲ打ト云ナリ
 蕎麥ヲ打 木ノ枝ヲ一 田ヲ一 氷ヲ一
 間地ヲ一 幕ヲ一 鐵炮ヲ一 網ヲ一
 門ヲ一 木戸ヲ一 馬ヲ一 九折ニ馬ヲ一 ナト又
 馬ノ一 ヤウナト
 敵ヲ一 碁ヲ一 双六ヲト 彈碁ヲ一
 荒打 土藏ノ壁ニ云フ 波ノ一 火ヲ一 紐ヲ一
 碑ヲト 碑銘ナトヲウシトル 米ヲト 市中ニテハ隻ヲ取テ米ヲツクフヲ米打カミト云アル
 打飽 一 扇斗 一 敷ノ帛 一 三キ 米ヲ

灌頂ヲ | 盆山ヲ | 花ヲ | 遊宴ノ序ニテ賤者ハ

此数ハ物ヲ為事ヲ打ト云ナリ

打聴 | 忘 | 詠メ | 笑フ | 揃フ

捨ル | 十カ | 遺心 | 過ル | 食フ

出ル | 寄ル | 歎ク | 物語ル | 走ル 田舎ニテハウツハシルト云

續ク | 付ケニ物ヲ言 | 寝返リヲ | 博奕ヲ | 哥ノコトハニ云フ

直打スル 物ノアタ | 氣ヲ | 寝返リヲ | 博奕ヲ | 他人ノ非ヲナシル又ハ

道樂ヲ | 身ヲ | 寸クダク | 入入 物ニ執着スルヲモ

破ル 悉物ヲソコ | 割言 入魂ニモノヲ | 枇テ | 言誌スル

此類ハ言葉ニテ打ト云ナリ

右ノ外アマタ有ヘモ今住スルモノハ風与意ヒ奇

リタルトヲ筆ニ任セテ書キ集ニ許ナリ

寛政三年十月廿六日 老邁赤樹漫筆

七漫筆ハ此日六角少將殿目白巻ノ 名下郎ナリ 言

後ノ事ヲ主人ノ書集ヤトノ存ニナリ 序上

ニテ筆セシモノハ帰田録又顔會ノ文ハ此後ノ

贅書ナリ

加點之事

他人ノ問ニ可否ヲ對ルニ加點トテ其宜キニ點ヲ
加フルトアリ又廻文散狀等ニ領諾ニテ其書
面ヲ返抄スルニモ加點トテ勾ヲカケルトアリ或ハ
又自記ノ草帳ノ文彖ヲ改正ニテ正書スル
トキニ事濟クニ從テ塗抹スルト各通ニテ
常ニ點スルト云ヘリ考ルニ此等ノ稱言ハ一概ノ
名目ニシテ古實ニ違フニ似タリ舊記ヲ考ル
ニ懸釣ト稱ニ加點ト稱ニ引墨ト稱ニ又ハ
塗抹ト稱ニテ其體稍異同アリ今少ク所見

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

ノ趣キヲ注ニテ其參差アリト共テ述ビテ柳

懸釣ト云フ事ハ其形象翠簾ノ釣ノ如ク

ニ點スルトテ去ヘリ

山槐記執筆要

勘文並申文懸勾様

又説

可用何様乎之由申相府之處已兩説也但以去勾
知之可横翠簾釣欵可用端様之由有答云々

達幸故実抄 陣右筆問変

懸鈎様事

永萬元正世日功過定 懸鈎於表紙上文

勘解由大勘文

如此懸之

資仲抄懸様如此也然而鈎跡以無割目為

善云々

飾鈎曰沃懸地釵宿老人檢非違使別當等用
之但中院大理問答抄時繪沃懸地共有加點彼是可

用款云云

爰加點不アル如斯入點アルナリ其爰有職
問答見ヘタリ猶下ニ其文ヲ引クナリ

有職問答曰官位ハ唐名讀中ノナリ常ニ唐ノ
音ヲ讀也一ハ大文字トシテモ一ハ小文字トシテ

中ノナリ
ハ分ニシテ

右問ヘ止趣キハ所宜キトノ義ニテ夫々ノ文
ハ御加點アルノ跡ニ一ハ是又鈎ノ義ナル

三 中口傳卷四

引墨裏事也但非秘藏事不書封ニテ引墨也

爰ニ引墨トアルハメ又タノ跡ニ一トルヘニ當

時公家ノ方ニテ白紙ニテ裏テ出サレモ

各右ニ様ハ引墨アリ曾テ是ヲ昔年小林氏

有之ト云フ儒生ニ関ク唐書ニ斜封ト云フアリ

恐ラクハ右ノ引墨ノサテヲ以テ封ニメニ用ルナ

カト云ヘリ惜カク其本文ヲ関脱セリ今其

有之モ云セリ

以上四記ノ所見並先達ノ言ヘルヲ共テアケ注

スルナリ今ハ弃者ク入文ニ塗抹スルナリヲモ點
スルト云ヒ習セリ塗抹トハ文字ノ中間へ如斯
墨ヲ引ク事ナリ草書ノ文ヲ正書ニテ
事濟タル文へ何々之事如斯文字へ斜ニカ
ケテ墨ヲ引モ是亦又塗抹ナリ考ヘワカツ
ヘニ剩へ俗中ニハ朱引スルニ中間へ|||如
此ニニスナリ引ヲ書ノ名トシ又ト如此ニ一ト
スモ引ヲ人ノ名トスルナリ笑フニ堪ヘタリ
然レテ其ヲ歌ニ作りテ
三朱引スル中ニツハ物ノ本在リニツハ年号ツカヒ

右地名中ハ人ノ名在リナリ官ノ朱引ト無テモルヘシ
朱引ノ定ハ人名ハ右へ一スニ引ク地名ハ右へニ
スシ引クナリ是等ノナリハ人々ノ知レルナレ
トモ右ノアサレ哥ヲ筆スルニマカセテ贅書
スルナリ
右勾點加點引墨等ノ事並塗抹朱引ノ參
差アルナリ或孺兒ノ尋ルニ對ルノ草稿ナリ
脚モ高中ヲ脱ス也

寛政改元三月盡日

老邁 志 齋

又三十一卷 笛吹峠軍ノ條ニ 北条家 南朝本 共ニ云称津
小次郎ハフスヘ華ノ鎧ニ同毛ノ兜着テ七
ツ物山ノ如クニ取付テ鹿毛ナル馬ニ馬鎧カ
ケテ薄紅ノ大笠駿ニ一丈アリニ見ヘタルカ
ナカイ捧誠ニ程ケニ提ケテ云々
以上ニツ物四ツ物ノ名目見ヘタル文ナリ
大平記三十一卷 笛吹峠軍ノ條ニ長尾彈正根
津小次郎ハ敵ノ陣ヘ馳入テ將軍ヲ討奉ラニ
ト相謀テ將軍ノ御内ノ者真似ニテ將軍ハ
何國御坐候ヤラニト馬ノ上ヨリノヒ上リ見ケ

レハ相隔ル草鹿ノ的山許ニ成ニケル云々

本文切約シテ
其要文ヲ撮記ス

右ハ際ヒ近キ事ヲ譬ヘテ草鹿ノ的山ト云ニ
ナリ草鹿ノアツキノハ波々伯都因幡入道
宗岳カ名アル山のノヲ記ミタル細川高國ノ
自筆ノ本ヨリ写セシ由ニテ或人ノ藏書セ
ルヲ注ミタル文ニ云草鹿ノ塚ハ其アワヒ弓杖
上ニ打テ十枚ノ処ニ草鹿ヲ狭ムナリト云
業弓杖ト云ハ七尺三寸ナリ

室家称北方事

小右記曰左大臣殿大北方一条右府始ナリ

寛弘九六廿九

後拾遺集曰右大臣北方

右大臣六条顕房公
北方八権中納言隆俊女

中右記曰

保安元
七廿二

法性寺殿内府北方

民平宗近女
宗近右大臣俊宗

同寛治三
九十五

右府北方六条顕房公ナリ

後拾遺集左工門督北方

左工門督八師忠之上御門右
大臣師房公男ナリ

山槐記曰

保元二
正四

頭弁北方兼室光頼

増鏡曰富小路中納言秀雄北方ニテオハセシカハ云

古今著聞集才五和歌部ニ云世中ニ付ハ此ノ事云

客々げしきより何れにて何れなるは此の事云
云々して中々北方ニテ始終いみじくも事
以上大臣ヨリ雲客ニテノ通称ノ證ナリ

雑色名目ノ事

其身程ノ色品不極侍タル者ノ子ノ任スル故ニ
雑色ト云拾芥抄ニ雑色ノ名目不載但ニ雑
色ヨリハ非藏人トナリ又六位藏人トナル出納

